

2016年4月15日
日本環境設計株式会社**DMIC（デリー・ムンバイ産業大動脈構想）における
E-waste（電気電子機器廃棄物）回収を通じた資源再利用事業が本格始動いたします**

日本環境設計株式会社（所在地：東京都千代田区霞が関 代表取締役社長：高尾正樹）は、経済産業省とインド商工省が2012年11月に合意したDMICにおける日本側の事業候補全19件のうち、「E-waste（電気電子機器廃棄物）回収を通じた資源利用事業」を進めてまいりました。

この度、インド・グジャラート州で廃品として回収したPC基板を含むE-waste（電気電子機器廃棄物）を、日本国内で行う資源化处理の第一便として初めて輸入し、資源化处理を実施いたしました。この第一便を皮切りに、今後本事業の運用を本格的に開始し、インド全域で携帯電話を含むE-wasteの回収を行い、将来的に年間1,500トンの資源化处理を目指します。

日本環境設計は、成長著しい新興国でのE-waste回収を通じた資源利用事業によって、海外現地での環境負荷低減のみならず、我が国にとっても持続可能性に配慮した資源調達を実現することに貢献します。

■DMIC（デリー・ムンバイ産業大動脈構想）

インドのデリーとムンバイの間に、貨物専用鉄道（円借款 4,500 億円）を敷設し、その周辺に、工業団地、物流基地、発電所道路、港湾、住居、商業施設などのインフラを民間投資主体で整備を行う、日印協力の地域開発構想です。総額90億ドルの資金支援枠のうち、日本側には45億ドル、全19の事業候補が双方の合意のもと、2016年までにプロジェクトの実現を目標に進められています。

■E-waste（電気電子機器廃棄物）回収を通じた資源利用事業

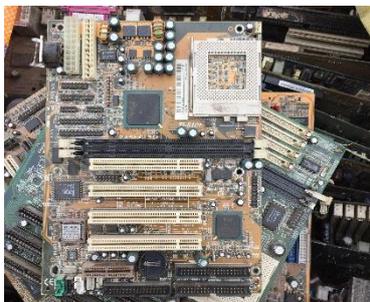
年間40万トンものE-waste（電気電子機器廃棄物）が排出されていると言われるインドでは、E-wasteの不法投棄による地域への環境汚染や不適切な廃棄物処理（野焼き、水銀アマルガム法など）による健康被害の可能性が指摘されています。また、インドではリサイクル業者や技術が不足している状況にあり、弊社が日本国内で培ったE-wasteのリサイクル技術、インフラをインドに展開し、製錬会社により貴重金属を取り出すことで、資源の再利用化に貢献するとともに、現地に暮らす人々の健康被害や環境被害を減らすことを目的としています。

■調達基準の世界的傾向

資源産出国において、希少金属は資源の権益をめぐる汚職、暴動や紛争などを引き起こす一因とされています。E-wasteをリサイクルすることは希少金属の再資源化のみならず、紛争をもたらすことなく資源調達を可能にし、地域に安定をもたらす要因の一つとして期待されています。そういったことから、国際的な調達基準を満たす一手段として、リサイクルへのニーズが高まっています。



E-waste 到着の様子



グジャラート州回収 PC 基板 (1)



グジャラート州回収 PC 基板 (2)



本件に関するお問い合わせ先

日本環境設計株式会社 広報担当：沖田

電話：03-6273-3218 FAX：050-3737-3463 E-mail：info@jeplan.co.jp

